

市民と行政との連携による豊かな水環境づくり

市民と行政の新たな連携のありかた

地域住民の市民活動への参加意欲が高まる中、環境保全活動、学校教育を含めた学習活動、川を活かしたまちづくり活動等、様々な分野において市民団体等の活動が活発化してきています。

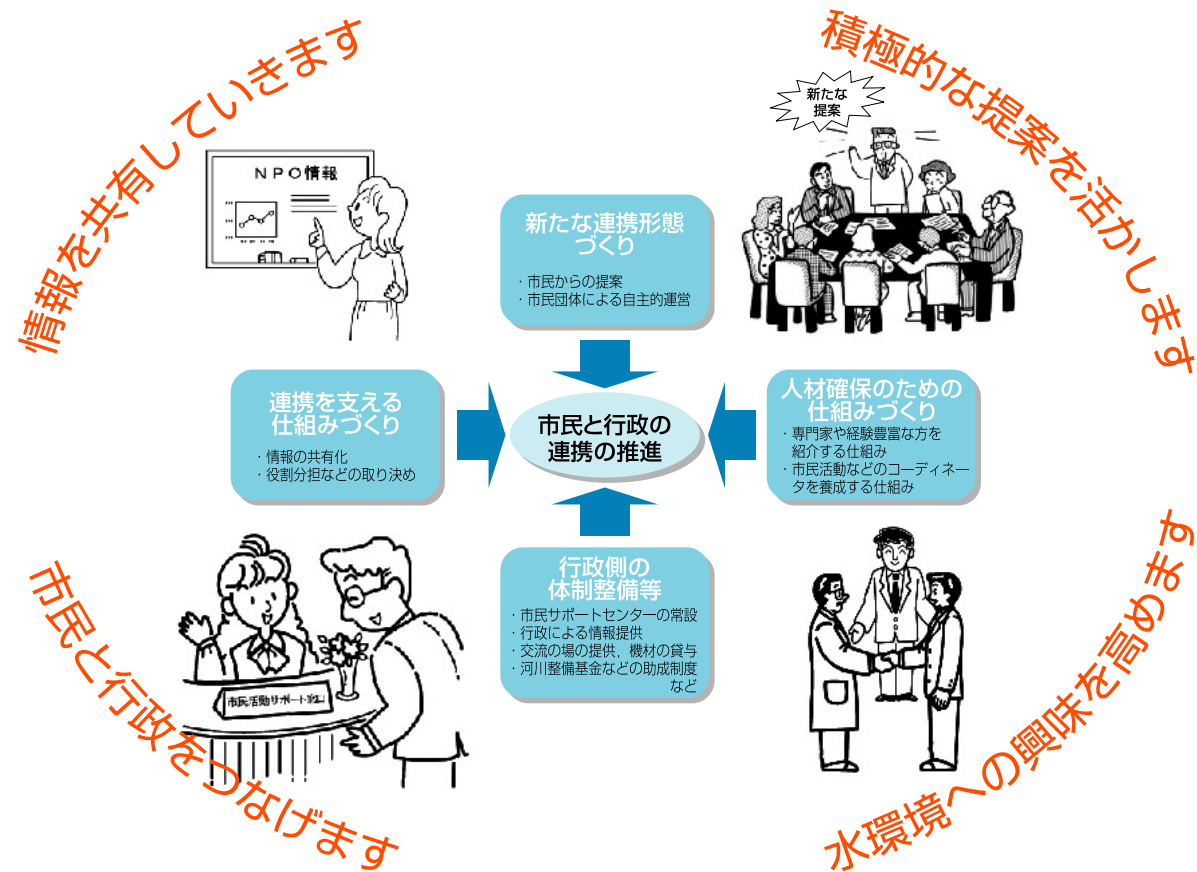
市民団体等と行政が互いに大切なパートナーとしての役割を果たすことが期待されており、河川行政においても市民団体等との連携を積極的に進めているところです。

仙台地域では、『豊かな水環境が育む自然と人にやさしい杜の都の創造』に向け、市民と行政が連携する仕組みづくりに力を入れ、創意と工夫をこらした取り組みを積極的に行っています。

- 地域の特性や実状に応じた多様な連携形態としていきます。
- 市民からの地域固有の豊富な知識に基づいた提案を活かしていきます。

新たな連携のありかた

これからの市民と行政の連携については、「河川における市民団体などとの連携方策のあり方」に関する河川審議会答申（平成12年9月）により、その方向性が示されています。



「河川における市民団体等との連携方策のあり方」に関する河川審議会答申ホームページ
<http://www.mlit.go.jp/river/rfc/opinion/index.html>

市民活動の継続

仙台地域では、戦後の混乱期と都市化の進展によって急速に河川の汚濁が進みました。このような中で、梅田川では地域住民による清掃活動がはじめられました。こうした梅田川での市民活動は六郷堀、七郷堀、郡山堀、広瀬川と全市的に広がり今日に至っています。

このように、仙台地域の水環境は市民によって守られてきたのです。

● 1960年代前半



ごみ捨て場となった梅田川

● 1965年ころ



● 現在



NPOによる広瀬川清掃
 (広瀬川の清流を守る会)



市民活動の広がり

仙台地域ではNPO団体をはじめとして、河川や森林の保全などの多くの市民活動が繰り広げられています。

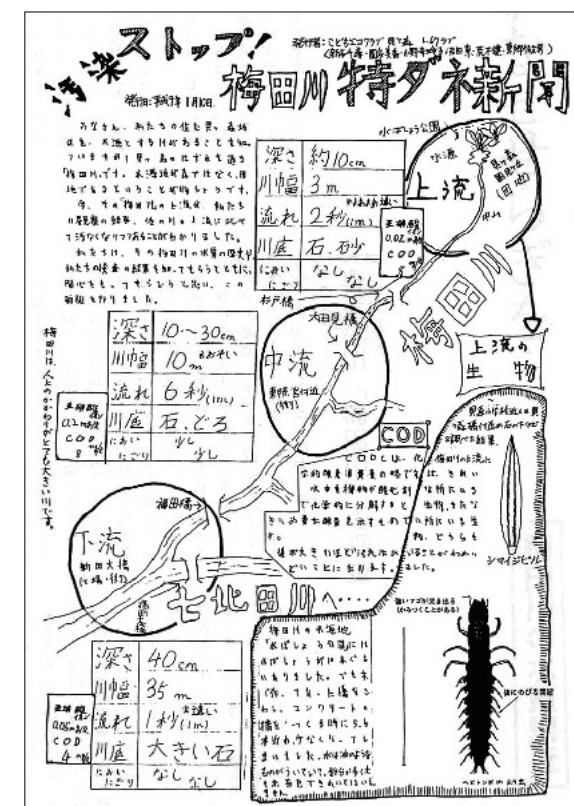
今後こうした市民と行政とが連携し、足並みをそろえた活動を行っていくことにより、より優れた水環境を形成していくことが可能となるのです。



「100万本の森づくり」
 植林事業（仙台市）



郡山堀でのホテル再生事業（広瀬川の清流を守る会）



梅田川特ダネ新聞（こどもエコクラブ貝ヶ森）